



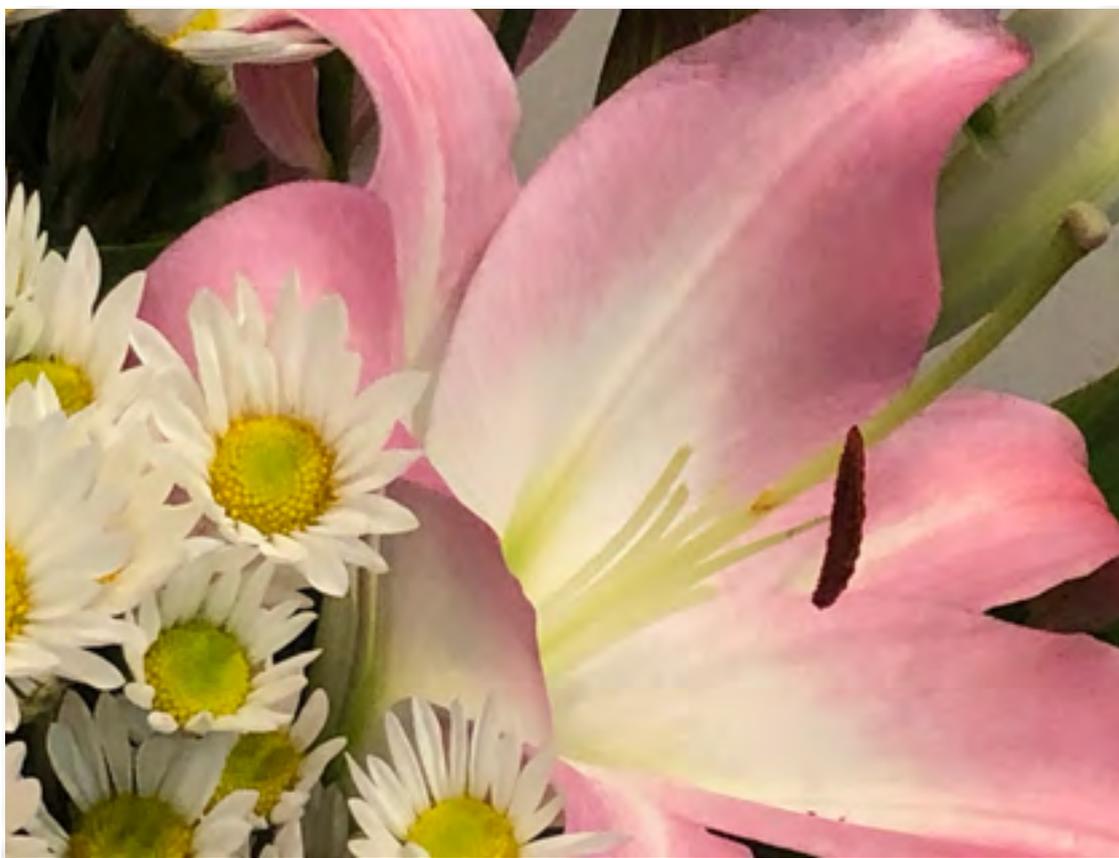
ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会 発行日 2021年10月3日

№. 89

だから、主にいやしていただくために、
罪を告白し合い、互いのために祈りなさい。
ヤコブの手紙 5章16節a



礼拝献花より

御言葉に生きる

あなたの御言葉は、わたしのものとなり わたしの心は喜び躍りました。
エレミヤ書 15章16節b

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



シリーズ説教

『キリストの名前』

牧師 佐藤和宏

マルコ9章38～50節

新しい教会に着任すると、まず信徒の皆さんの名前を覚え、可能な限り最初の聖餐式で、一人ひとりのお名前を呼びかけられるようにします。それは、キリストの十字架を想起する場面で、一人ひとりがこの私のために、キリストは十字架の死を遂げてくださった事実を、深く感じてほしいと願っているからです。

福音の日課は、次のように始まっています。「先生、お名前を使って悪霊を追い出している者を見ましたが、わたしたちに従わないので、やめさせようと思いました。」弟子たちは「イエスの名が悪霊を追い出した」という事実よりも、自分たちに従わないということに目を留めていたのでした。この弟子たちの態度は、私たち人間の陥りやすい過ちかもしれません。「わたしたちに従わない」。私たちと同じであろうとしない。だからやめさせる、だから相入れない。

江口再起先生の著書で、キリスト教の教派を超えた働きを意味する「エキュメニズム」という言葉の語源が「全世界」を意味することから、エキュメニカルという共同の働きはキリスト教あるいは宗教という枠を超えて、全世界のすべての人々に向かつてなされるものとなることが期待されていると指摘されています。「私たちに従わない」ということで、誰かを区別してしまう私たちがいるのですが、大切なことは神の御心がどこにあるか聞いて生きることなのです。

さて、第二の朗読でお読みいただいたヤコブの手紙5章15節以下に次のようにありました。「聖書略」

「罪を告白し合い、互いのために祈りなさい」と言われています。私たちはクリスチャンであるならば、正しく生きなければならぬと自ら思ったり、あるいは周囲からそのような人々であると思われることとがあります。しかし何よりも大切なことは、「罪を告白し合い、互いのために祈りなさい」と教えられていることです。つまり私たちクリスチャンにとっては、いかに熱心であるかが信仰者の決定的な条件ではな

くーもちろんそうありたいと願うものですが、主が私たちに求められていることは、自らの罪を自覚すること、正しくありえない自らを思い知ること、そしてその罪を告白することにほかならないのです。すなわち自らの罪を痛いほど自覚している。これがキリスト者の決定的な姿にちがいないのです。なぜなら罪を自覚するとき、人はその罪の赦しのために、キリストが十字架の死を遂げられたことを、私のこととして実感できるからです。このように自分の罪とキリストの十字架がつながったとき、人は心から感謝して生きることができるのであり、これがクリスチャンとされるということなのです。ですから罪を告白し祈り合うこと、そして罪が赦された事実で感謝し喜ぶこと、これこそ私たち教会の交わりにふさわしいことなのです。

私たちが罪を自覚し祈り合う群れとされる時、「主が赦してください」と恵みがその交わりにあふれるのです。キリストが、私の罪、あなたの罪、私たちの罪のために、十字架の死を遂げてくださった。このことが他の誰かのためではなく、紛れもなくこ

の罪人である私のためであったと実感するとき、ここに何一つ区別は生まれません。こうして私たちは主にあつて生きるのです。

「○○さん、あなたのために」。聖餐式の際、私とその十字架の出来事を思い起こすために、お一人お一人の名前を呼んでいるのは、このためなのです。正直なところを申し上げると、「○○さん、あなたのために」と、はつきりと「罪」について口にしたいと思っています。まさに「罪を自覚し、祈り合う」群れとされるためです。

このような群れとされる時、たとえあなた自身が自分を省みて、弱さに恐れ、足りなさに嘆き、役に立たないと溜息するとしても、そのあなたのために、十字架の死を遂げられた主の名前のゆえに、そのままのあなたが、良しとされ生かされていることが実感されてくるのです。主があなただけのために十字架の死を遂げられたのは、すべての命が主の祝福のうちに輝くためにほかなりません。あらゆる命のために祈る群れとされてまいりましょう。

(聖霊降臨後第18主日)

○野○子

戦争と終戦、夏が来れば思い出す切り取られた映像。昭和20年の夏、戦争の末期、子供はいつも背のう(背に負う、又は横に下げるカバン)を持ち、遊んでいた。カバンの中身は煎った米と干したトウモロコシ等の保存食だった。

大阪と奈良を分けるようにそびえる生駒山を越えてきた裸足の小三ぐらいの男の子。まるで紙風船を膨らませたようなその子の脇腹からは、飛び出した腸が透けて見えた。私の前に立ったその子にすももをあげる

と、腸の中に入っていくのが見えた。静かに笑ったその子の顔が今も忘れられない。あの子はどこでどの様に死んでいったのか？ 戦争を思い出す度に鮮明に脳裏をかすめる。

大阪大空襲の夜中、生駒山の向こうの大阪の真っ赤に焼けた空に、大きな火柱が落ちていく様は忘れられない。

今も鮮明に思い出す。防空頭巾にモンペ姿の私たち。親に手を引かれて年寄りを連れて、田んぼの畦道を走って走って町から逃れた。今は奈良から電車で20分の大阪を目指して爆撃のためゴーゴーと頭の上を、無数のアメリカのB29の飛行機がどこからか現れ飛んでいった。生きた心



証しをする○野○子さん (8月15日)

地のしなかったあの日は小三の夏だった。古都奈良と京都には爆弾を落とさないと決めていた、と知ったのは、終戦した後だった。

終戦後、奈良には多くの若いアメリカ兵が駐留してきた。幼い頃遊んでくれた近所のお姉さんは、父がおらず母は病気だった事情もあって、アメリカ兵に身を崩し、腕を組んで歩いていった。夏に思い出す昔の流行情『星の流れに』。教会のある友が『その歌は不良の歌だ、と親に叱られた』と言ったが、誰が好んで『夜の女』になるものか！ 私はその頃のお姉さんを思い、うら悲しいイントロが流れると切なさとしがが胸に染みる。国立音大の先生が「この伴奏の部分が名曲だ」と強調された時には、思わず賛同した。

中途半端な、どの様に生きたらいいのか、皆が模索している時代に、私も子供心に考えた。その頃、近所に読書好きな婦人がいて『風と共に去りぬ』を貸してくれたので、中1の思春期の年頃の私はその長い全集をむさぼるように読んでいた。

それから少し経ち、家から2、3分の所にルーテル教会ができた。あ

る日、その教会で特別伝道集会が行われ、物珍しかったので、叔母と妹と共に連れだつて出掛けた。その日から私の教会生活が始まった。

はじめは親も教会に行くことを反対し、色々と難題をもって妨害してきたが、やがて諦めたようだった。まさか本気で通い続け、今日まで六十数年通い続けるとは誰が思ったことでしょうか。主が捉えてくださった。

教会へ通い始めたある日の真夜中、ふと目を覚ました私の前に、神様のような存在が現れた。大きな大きな白い衣で、私を包むように。その幻のような姿に「助けて下さい！」と呼ぶ私の心は平安に満たされていた。

その日から、口に言い表せない、恩寵でしょうか、それは何年も続いた。私が主にすがって離れないで生きていく為に導いて、共に歩んで下さったと思う。不思議な出来事だった。

(次号に続く)



●こんな動き●教会の中で

小さな枝だって
大切な存在

○村○子



聖壇に毎週飾られるお花たち。このお花は何人かの方々が交替で献花し、いけて下さっていることは皆さんご存知のことでしょう。

その中でも、クリスマス、イースターなど大きな行事のある時には必ず担当して素敵なお花をいけて下さる○村さんに今回はお話を伺いました。

■お花はいつ頃から始められたのですか？
-高校を卒業してすぐ、母に勧められて今の先生について習うようになりました。それからずーっとですから、もう「十一年」になりますね。(笑)

■ここの聖壇は、お花をいけていけるかがですか？
-とてもいい匂いですがね。バックはシンプルでモダンなコンクリート打ち放しですから、お花がとても映えます。それにいくらでも、大きくいけられますでしょ？お花をいけるのにすばらしい空間です。

■花材はどのようにして考えられるのですか？
-ふだんから「お花をいける」ということがいつも気持ちの中にあるのです。ですから庭を見ていると今度はこれをいけてみたい、あれを使ってみよう、と自然に思っているんですね。私は枝ものは庭のものを使うことが多いので、それに合わせて花のを選びます。思った通りの花が見つかることもありますが、そうでない時、もちろんあります。でも自分がイメージしたものと違って、思いがけない出会いもあるんですよ。

ただ庭のものを生おうと思うと、庭をきれいに刈り込めない。だから、庭木はいけ花用にと自然に伸びさせて、がまんしているんです。(笑)

■いける時に一番大切にしていることは？
-お花の一本一本を大切にいけてあげようと思っています。どのお花も、どの枝も全て生きてくるように。それぞれが一番美しく見えて、そして調和がとれているようにと気を配ります。

窓形のいいお花や枝は、それだけでももちろん美しいのですが、そこに添えられる花材によってさらに深みが出てくるんですね。

お弟子さんたちのいけた花を 私を手直ししてあげるときにも、 みんなが断ち落として捨てたも

のの中から、小さな枝を一本拾って整えてあげるの。それだけで、全体が引き締まってくる…。みんなが「あー、なるほど。」って。

■何か聖書の話をお思い出しますか？
-ええ、お花も枝も神様によってそれぞれタレントを与えられているのじゃないかな。どんなに小さな存在でも。

ですからお弟子さんたちにも、よくこう言うんですよ。「この人、ちょっと向きを変えてあげたら？」「この人、入れる場所を変えてあげたら？」(笑)。だって、神様立ち場で生かされてくるのが一番いいでしょう？

■教会や人間でも同じですか？
-お花をいけながらほんとにそれを感じますね。人間と同じだって。みんながみんな直立ってはいけ花も成り立たない。脇にまわるもの、裏で支えるもの、どれもみんな大切なんですね。だからお花にも、「あなたはここね。」「あなたはこっちがぴったりね。」などと話ながらー。

■そんなふうにお花と対話しながら、いけていらっしゃる…。
-ええ、だから時間の経つのも忘れていまして。大きなものをいけている時は気がついたら2時間位たっていたり…。私はいけ上がったお花を飾り、というよりは、いけている時の時間、いけている時の気持ちがとても大好きなんです。

■そうやっていけたお花を礼拝でごらんになってどうですか？
-うーん。楽しみながら神様に感謝の気持ちでいけていますが、未熟な自分をさらけ出しているようでやはりとても気恥ずかしい思いですね。あそこをこうすればよかった、なんて思うと礼拝中でも出て行って直したくなったり。(笑)でもこういうことで神様の小さなご用をさせていただいているのは、自分にとってすばらしいことだと幸せに思いますね。

■お花をやっていてよかった、とー。
-ええ、ほんとうに。「十一年」の間には、何となくに続けていた時も、これをやっていた何なのかしら、と思う時もありましたけど、今、こうやって聖壇のお花をいけていると、ああ、この時のために神様が用意してずっと続けるせて下さったのだな、と改めて思うのです。

■続けていたことが、こういう形で用いられるなんて、すばらしいですね。
今日はありがとうございました。

○田さんの思い出

○山○子

○田さんのお母様の○田○子さんが藤が丘教会にいらしたのは、2018年1月のことでした。それまで住んでおられた杉並区の家を畳んで、お嬢さんの由○子さんご家族のすぐ近くの自立型のホームに入られたのです。その年の8月には佐藤先生より受洗されています。

しばらくして由○子さんからご相談がありました。母は自由に生活できるとは言え、慣れない土地でほとんど部屋で過ごしているので刺激がなく、心配です、礼拝には私たちが連れていけるが、二人とも仕事なので、週日に外に連れ出す機会がなくて・・・できれば聖研やお仕事会にも参加させていただけると・・・それを聞いて今は亡き夫・○が（その頃既に病がございました）僕がお連れしますよ、とお引き受けしたのです。

それから夫は聖研のある第一と第三の水曜日の前日には必ず、私と由○子さんでちゃんと○田さんのお迎えの手筈が付いていることを（しつ

こいぐらいに）確認し、当日は「いそいそ」と身支度して出かけるのを私はいつも内心ほほえましく思いながら見送っていたものです。

我が家からも近い、モダンなホームのエントランスのベンチに、いつも○田さんはシャンと座っておられました。三階のお部屋からエレベーターを使わず階段で降りてくるのですよ、とおっしゃってました。

すでに声が出なくなっていた夫でしたが、送迎では○田さんも夫も何の不自由もないよ、と。夫のかすれた声を○田さんはちゃんと聞き取ってくださいるのでした。

夫はそれまでも聖研は必ず出席すほど楽しみにしていましたが、更に○田さんを送迎するお役目をいただいていたことに嬉しそうでした。私も半分病気の夫にこんな素敵なお役をくださって神さまに感謝したものです。

第二水曜日はお仕事会の日で、こは私の出番。今はコロナで休会していますが、月一回の集まりはたいして15、6名の方が集まって、手芸やカード作りの手作業をする女性会の活動です。手をセッセと動かし、お

昼はメンバーの方々が用意してくださった美味しいご飯をいただき、お口も忙しく動かし、楽しく半日を過ごすのです。

○田さんも、この日をとても楽しみにしていらして、リボンを糊付けしたり、カードを袋に入れたり、時には布も貼ってくださって、何とかお役に立ちたいというお気持ちがとても伝わってきました。お食事中も皆さんの話題に加わったりお隣の方とお話したりと、由○子さんが心配なさることなどないしっかり振り。お食事もとても美味しいと、残さず召し上がるほど。

このことを由○子さんにお伝えすると「家族の前とは全く違う母の様子に、教会の皆さまでなければあのような不思議な母を引き出すことはできなかつたと、本当に感謝に尽きません」とおっしゃってました。

聖研から帰った○田さんが、近くのスーパーで由○子さんのための買い物をしてくれたこともあったそう、今考えてもとても不思議だとおっしゃってます。「教会で小さな奇跡が起こっていたのですね。そのことが今でも私の心を温かくして

くれます。」と。

そんな○田さんでしたが、2020年1月からのコロナ騒ぎに持病持ちの夫も外出を控え（その年の5月には夫が天に召され）、諸集会もお休みになり、○田さんにとつてはとても寂しいことだったと思います。でも礼拝には、お嬢さんの○郎さんやお孫さんの○志君、沙○子さんに連れられて出席されることが多く、私は、静かに凜と座ってらっしゃる後ろ姿をみつけてはうれしく思っていました。車の中でお聞きしたお嬢さんの○郎さんへの褒め言葉、「優しくてあたたかかくて、面白くて楽しい人で、私、大好きなのです」も忘れられません。

○田さんは8月28日、87歳で天に帰られました。今は、天国で安らいでいらつしやることでしょう。きっと夫に「やあやあ、もう来たんですか」などと言われ、でも夫は嬉しそうに先輩風を吹かせて、自慢気に天国を案内していることでしょう。

神さま、○田さんを、そして先にかかれた皆さんを、どうぞ、どうぞ、その大きくてあたたかい懐に、よろしくお願ひいたします。

○田○子さんへ

江○子

○田さんのご召天をお聞きし、深い寂しさを感じております。

○田さんのいつもニコニコしていらしたお顔を思い出します。礼拝にお見えの時には傍らにいつも○田家の皆様が寄り添っていらっしやいました。由○子さん、沙○子さん、○志君。何と言っても○郎さん。帰りの道の藤が丘駅まではしっかりとその腕につかまり、○田さんの背中はその心感と幸せオーラが漂っていまし

た。思わず「よっ！！三国一のお婿さん」と掛け声をかけたくなるようでした。

それだけご家族からのたくさんのお愛情と優しさ、神様からの恵みと平安を頂いた○田さんの、その童女のような純粹な笑顔は今も目に焼きついております。

2019年には、我が家での家庭集会にも毎回参加して下さいました。私の自宅は玄関にたどり着くまでに約30段の外階段を上がらないといけません、○田さんは手すりにつかまることもなく、しっかりと

足取りで階段を上ってこられました。いつも背筋をピンと伸ばし佐藤先生のお話や参加者のご意見を聞いていらっしやいました。終了後の恒例のお茶の時間は佐藤先生と○山兄も参加した女子会ならではの盛り上がりでした。ある夏の暑い日、バニラアイスと珍しいばらの花アイスを皆で頂きました。隣に座っていらした○山姉が「○田さん、半分ずつ食べましょうよ」と言われ、○田さんが一口、口に入れた時に「はい、大

変美味しいです。」と嬉しそうにおっしゃったのは、昨日の出来事のようにです。

10月には由○子さんが出演なさる演奏会があると伺っています。由○子さんがバイオリンを演奏なさる事をいつも嬉しそうにお話されていました。由○子さんのバイオリンの音色をきくと天国で神様と共に聴きながら神様のもとで眠られますように心よりお祈り申し上げます。

■牧師室より

10月17日と24日の礼拝後、それぞれのグループの皆さんに、次の点について説明する機会を設けることになりました。

①東教区の現状と課題（引退による牧師不足、牧師充足率等）②宣教方策「新しい教会」を指して（礼拝、教職の配置、地区再編等）

東教区では、この先10年で11人の牧師引退が起こるといふ現実への対応が迫られています。これまでは、それでも他の教区から新たに牧師を招くことができましたが、「牧師充足率」（一教

会一牧師を100とした場合の比率）を見ると、他の教区から招くことにはできそうにありません。ですから、10年で11人の不足が考えられるのです。そこで「新しい教会」を指す方策が必要となつてまいります。当たり前であつた一教会一牧師、各個教会主義からの転換、そのための適正な牧師の配置などなど、新たな取り組みが急務となつてまいります。

また、私たちが「新しい教会」を指すことについて、皆さんから声を聞かせていただき、今後具体化していくための足がかりになればと思っております。（佐藤）

今月の受洗記念日の皆さん

- 11日 清○兄、○藤か○ね姉
- 13日 ○飼由○子姉、○林○也兄
- 24日 清○子姉
- 25日 ○田○一郎兄
- 27日 ○崎ま○か姉 28日 ○村○樹兄
- 29日 ○山○兄、○山○子姉

おめでとうございます。



「あなたの御言葉は、わたしのものとなり
わたしの心は喜び躍りました。」エレミヤ書 15章 16節も
福音堂教会ウェブサイト <http://www.fujigaoka.org/>
フェイスブックで礼拝のライブ中継をしています。（毎日朝11時から10時中）